

霞ヶ浦ではじめて見つかった特定外来植物「オオバナミズキンバイ」の防除作業を実施しました。

特定外来植物「オオバナミズキンバイ」は、南アメリカ大陸などを原産とする水生植物で、旺盛な繁殖力により水上・水中にかかわらず繁茂を広げ、他の植物の生育を阻害する**侵略的な外来植物**です。日本でも琵琶湖などで近年定着し、**急速に分布面積を拡大**しており、在来植物の駆逐など生態系に係る被害が発生して**地域の問題**となっています。

オオバナミズキンバイの**完全除去には根の部分からいねいに抜き取り、ちぎれた茎や葉の回収が必要**となるため、人力を主体とした**手作業による防除作業**が重要になってきます。

今回、オオバナミズキンバイの繁殖が土浦市の霞ヶ浦(西浦)ではじめて確認され、**今後の河川管理に影響を及ぼすと考えられたため**、東邦大学の西廣先生のご指導の下、茨城県や土浦市、水機構等などの各関係機関の協力で緊急的に防除作業を実施しました。



日時

・平成29年8月28日(月) 9:00 ~ 12:00

場所

・茨城県土浦市田村町地先【霞ヶ浦(西浦)中岸5.0km付近】

参加者

- ・東邦大学: 5名
- ・滋賀県立大学: 1名(同行者2名)
- ・茨城県: 9名(生活環境部・霞ヶ浦環境科学センター・自然博物館)
- ・土浦市: 2名(市民生活部)
- ・国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構: 1名
- ・独立行政法人水資源機構: 5名(利根川下流総合管理所)
- ・国土交通省: 6名(霞ヶ浦河川事務所)
- ・霞ヶ浦関連の業務に関わる方: 3社から9名

計40名

防除作業は人力・手作業で根本から残らず抜き取りました。

特定外来に指定されている生物は、その繁殖力が旺盛で、拡大・蔓延を防止するためには、**侵入の初期段階で確実に防除**することが必要です。今回のオオバナミズキンバイの防除作業は、学識経験者のご意見と、琵琶湖での現状や防除活動の例を参考とし、台風などで水位が上昇して流出・拡散する前の早期に、完全除去を目標に**主に人力・手作業により**防除作業を実施しました。

霞ヶ浦の自然を外来生物の侵略から守るために、残暑のきびしい中、作業して下さった参加者の皆様ありがとうございました。

